

# 高尾山報

令和4年3月号



祝・国重要無形民俗文化財に

## 八王子車人形

# 法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(117)

桜の開花も間もなくでしようか。毎日の天気予報を確認しながら、桜前線(桜の開花予想)の進み具合も気になります。何となく

春になりぬと  
聞く日より  
心にかかる  
み吉野の山

(西行「山家集」)  
立春と聞き知つた日から、何となく吉野山の桜が心から離れないよ

この歌を詠んだ西行法師(一一八〇―一九〇)は、生涯にわたって桜を愛し、とりわけ名所として名高い吉野(奈良県吉野郡吉野町)の山桜に心を寄せました。立春から桜の開花までは時間があります。今、今かと花の便りを待ち望んでいるのでしよう。心はずでに身体から離れて、満開の吉野

山の奥に分け入っているかのようです。

西行は、若い頃から桜の木の下で死にたいという願望を持っていました。仏の道を切り開いたお釈迦様を慕いつつ、その願い通りにこの世を去って行きました。西行が亡くなった旧暦の二月十六日は、今年三月十八日にあたり。ちょうど春彼岸入りの満月の日に、桜の花は咲き初めているのでしょうか。

白川の  
春の橋の  
鶯は  
花のことは  
聞く心地する

(西行「山家集」)  
白川の、春の梢に鳴く鶯の声は、まるで桜の言葉の聞くような心地がするよ

た桜の花は、春を告げる鶯が運んできたのでしようか。西行には、鶯の声が「花の言葉」のように聞こえているようです。さぞかし美しい音色だったでしょう。西行も応えるかのように、優しい言葉を投げかけていたことが想像されます。

さて今回は、こうした「言葉」をめぐる布施行について書いてみたいと思えます。「無財の七施」の三つ目は「言辭施」という教えです。「言辭」とは「もの言ひ」のことです。

「言辭施」については「雑宝藏經」には、「父母・師長・沙門・婆羅門に、柔軟語を出す。麤惡言にあらざ」と説かれています。ここに「柔軟語」とは、トゲトゲしくない「当たり前の柔らかな言葉」を意味します。

一方、「麤惡言」の「麤惡」はあまり見慣れない漢字ですが、「粗悪」と同じように、「質の悪いもの」を表します。先ほどの「柔軟語」とは真逆の「下品



立春を過ぎ桜の開花を待ち望む

な言葉」となるのでしよう。目上の人に丁寧な言葉を用い、品性に欠ける言葉を使つてはいけないという戒めです。

「売り言葉に買い言葉」という言い回しがあり、相手の暴言に悪口で返すような言い争いは控えるべきですが、時には逆らえずに言い返せない場合があるかもしれませぬ。突き刺さった心の傷は、簡単に治せないもので、言葉の二つに、細心の注意を払う必要があるでしょう。

ちなみに、平安時代後期の流行歌謡を集めた「梁塵秘抄」には、「麤き言葉もいかなるも第一義

とかにぞ帰るなる(「荒々しい言葉(麤惡言)も柔軟な言葉(柔軟語)も仏法の究極の真理となつていこ)という歌が伝わっています。仏さまは、時として衆生(私たちのために救えて手荒い言葉で諭すという教えです(「涅槃經」)。仏さまだからこそ、方便(仮の手段)として、私たちを力強く導いてくださっているのです。

兼好法師(一一八三頃―一二三二以後)の「徒然草」には、言葉づかいをめぐる次のような章段があります。全てにおいて短所がないようにしようと思ふな

## 折り折りの記 (151)

### 春の瀧水煙濛々高尾山

波多野 重雄

春の高尾山は草木が鬱蒼と繁り瀧音が喧しい。そして、小鳥たちの楽園である。特に六号路の琵琶瀧の水煙は、新緑の中を真っ白く中天を覆う勢いで、風が高く舞上がり棚引く光景は高尾山の荘厳を象徴するかのようで絶景である。

この瀧を見下ろす、急峻な登山道を横切る大木の地上に浮き出た太い根は、階段の役目も果たすべく横たわっており、登山者の憩いの場とも云われる。この根の下は抉れて日溜りとなり、可憐なすみれがひそと群咲き、思わず登山者の微笑みを誘う。ここで一服し、山頂は真上に迫る。

(高尾山健康登山の会会長)

## 訪錫蘭島 (2)

### 遊廢墟大乘寺院

昔日反抗小大乘  
小乗僧勝大乘僧  
一同一様釋尊教  
親音信仰不滅燈

厚木市 荒井 一雄

何故に  
萬の絡まる廢墟からん  
秋迎の教へに  
迷ひ無からん

錫蘭島を訪れて  
廢墟と化せる大乘寺院に遊ぶ  
此の島に昔、小乗(上座部)仏教と  
大乘(大乗)仏教の抗争有り…

小乗僧徒は大乘僧徒に勝つ…  
積尊のみ教へは共に同じはず…  
【親音・薬師・不動信仰  
(大乘教理)はその後東アジアに  
拡まり、今も不滅の法灯を灯す…

らば、何事にも誠実さがあつて、他人を区分けせず、礼儀正しく丁寧に振る舞い、言い過ぎず、口数が少ないのに越したことはないだろう。性別や年齢に関係なく、皆そういう人が好ましいが、とりわけ若くて見目形の麗しい人の言葉づかいが、いつまでも心に残っている、心が惹きつけられる。

あらゆるものの難点は、物事に慣れた素振りや名人のように行動し、その場にふさわしいように誇らしげな態度で相手を見下し、馬鹿にするところにあるのだ。

(「徒然草」二二三段)

兼好は、見た目や言葉づかいだけではなく、「人を蔑ろにする(相手を軽くみて侮る)心」に、全ての欠点の根幹があると語りました。「言葉は心の使い」と言われるように、心の内は自然と言葉や表情などの外見に表れるものです。「言辭施」は「心からの優しい言葉で

## 高尾山薬王院中興第三十一世 山本秀順大和尚ご命日



二月四日は、先々代貫首・山本秀順大和尚の御命日であります。歴代先師墓地において、懇ろに御回向を致しました。大和尚は平成八年二月四日、世寿八十四歳にて御遷化されました。春一番の吹く温かな陽光の中で、亡き大和尚の御冥福を祈り、墓前に香を手向けました。

接する」という教えです。同じ物言いで、清らかな心から発せられたなら「柔軟語」となり、口先だけなら「麤惡言」となってしまうのです。

なほさりの  
言葉の花の  
あらましを  
待つとせし間に  
春も暮れぬる

(「風雅集」)  
永陽門院左京大夫  
(かりそめの巧みな言葉  
が真実であつてほしいと

思いつながら、あなたの訪れを待っていた間に春も暮れてしまったよ)

「言葉の花」には「美しく華やかな言葉」の他に「巧みなお世辞」という意味もあります。いくら飾つたとしても、心根と切り離されていたなら色あせてしまうでしょう。これから咲き溢れる「花の言葉」に耳を傾けながら、私たちも「木物の言葉」を繁らせたものです。(栃木北部教区普濟寺)



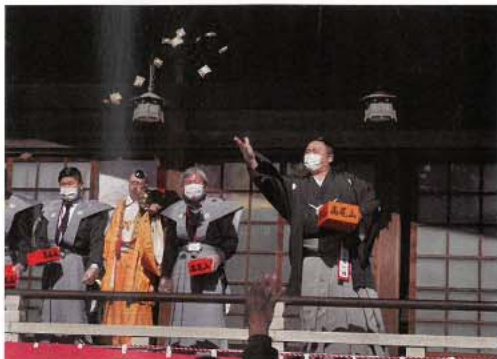
国重要無形民俗文化財となる八王子車人形・西川古柳座と八王子芸妓衆の皆さまや柳家小さん師匠も「福は内」



無病息災を願う佐藤貫首による「福は内」の大音声



プロバスケットボールチーム・東京八王子ビートルズの選手と片男波部屋の玉鷲間も豪快に豆をまく



感染予防対策のため、福豆は包装されております



「むささびーず」のムッチャンも参加



大本堂前にて人気者達から福豆を頂く大勢の人々



仁王門階段では歳男と歳女が佐藤貫首と記念撮影を行った

無病息災を願う「福は内」の声響く  
**高尾山 節分会追儺式**



川崎大師藤田隆兼御貫首大導師のもと厳かに法要が執り行われた

### 大本山成田山新勝寺中興第二十一世貫首 橋本照稔大和尚一周忌法要

於・成田山新勝寺光輪閣 光輪の間

去る二月十八日(金)午後一時より大本山成田山中興第二十一世貫首 橋本照稔大和尚一周忌法要が、大本山川崎大師平間寺貫首 藤田隆兼大僧正大導師のもと執り行われました。

法要には成田山貫首 岸田照泰大僧正をはじめ成田山内各御重役、成田山別院主監諸大徳、各総代様方がご参列の中、当山の佐藤貫首が随喜致しました。

照稔大和尚は、成田山内において要職を歴任され、平成十四年に大本山成田山新勝寺中興第二十一世の法燈を継承されました。

爾来、御本尊不動明王の靈験を仰ぎ成田山発展にご尽力されましたが、令和三年二月十八日、世寿九十六歳にして御遷化されました。謹んで増進仏果をお祈り申し上げます。

## 初午福德稻荷祭

二月十日(木)



去る二月十日、飯縄権現堂(御本社)脇の福德稻荷社において高尾山初午福德稻荷祭が行われ、家内安全・身体健康・商業繁昌・五穀豊穰などが祈願され、参列の御信徒の皆様と共に祈りが捧げられました。

初午の法要は、京都伏見の稲荷神社の祭神が、和銅四年(七一)の二月初初の午の日に降臨し鎮座されたと伝わるため、毎年初午の日に行われております。

## 院内散歩60

～薬王院の展示物～



油彩画「高尾山春景」  
画・佐藤善勇

### 厄年を過ぎた 御信徒の皆様へ

六十才の厄年を過ぎたなら 一年・二年を

七十才を過ぎたなら 暑さ、寒さを

八十才を過ぎたなら 春夏秋冬を

九十才を過ぎたなら 一日・二日を

気を付けられ 日々を大切に 圓滿にお暮し下さい

当山では皆様の (身体健康) (寿命長久) を祈念して 福壽圓滿の 御護摩を

お申し受け致しております。

## 二月十五日(釈尊入滅の日) 高尾山釈尊涅槃会

お釈迦様が入滅されたと伝わる二月十五日、高尾山にて釈尊涅槃会が行われました。

お釈迦様の真身骨が納められた有喜苑・仏舍利塔内において、佐藤貫首導師のもと法要が営まれました。その後、高尾山書院内に飾られた「高尾涅槃図」の前で、お釈迦様の御遺徳を偲び懇ろに御供養致しました。

高尾涅槃図には、お釈迦様が入滅された時の様子が描かれており、高尾山らしく天狗やムササビ、紅葉の木なども登場しております。



高尾涅槃図の前で御供養致しました

### 高尾山の昆虫

#### アオハムシダマシ

149

虫の和名の中にはニセ、モドキ、ダマシ等のネーミングを持つ種が少なくありません。当の虫にとっては偽物でも、真似ているのでも、騙している訳でもなく迷惑な話でしょうが、人が視覚で捉えたままの感じでの命名ですので、何とも気の毒なような思いがします。

今回取り上げたアオハムシダマシ(青偽葉虫)もそんな一種で、ハムシ科ではなくゴミムシダマシ科に属します。

ハムシは多種多様で、やや丸みを帯びた形状を思い起こしますが、本種は至ってスマートな体型をしていて、何故ハムシダマシとなったのかは、おそらくよく似たスゲハムシという同型の美しいハムシがいてこの種と誤認されやすいためと思われる、スゲハムシダマシの名の方が説得力があるかも知れません。本種は強い金属光沢があり、タマムシに匹敵するようなどとも綺麗な甲虫です。



この美しい体色にはバリエーションがあり、青緑や金緑色の個体が多い中、深紅、紫の個体も出現し、別種とする研究者もいます。

高尾山でも林野の花上やイタドリ等の葉をよく見つかり、その華麗な姿は出会った人の心を和ませる存在だと思えます。

(文)松島 孝 撮影)上村 雅昭)

# 観音菩薩の宗教 ⑤

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

## 観音菩薩の転生者としての聖徳太子 (その14)

平安時代の『聖徳太子伝』から江戸期の『聖徳太子伝』にいたる一連の伝記は、聖徳太子が観音菩薩の転生者、権化であることを中心思想として記述されている。太子の前世は観音菩薩から天竺・震旦を経由して、日本の用明天皇の皇子として誕生したとされる。その後、各分野で活躍した太子は、『日本書紀』などの伝承に基づきつつも、それ以上に太子の超人的な能力を語っている。そのひとつが太子自ら前世を述べることであり、もうひとつは自らの来世や未来に関する予言である。後者は、太子が聖武天皇として生まれ変わり東大寺を建立す

ること、さらには未来に平等院が建てられる地を予言することで、それらについては前号で見た。太子はこの他にも未来の予言をしている。前号に引き続き、『聖徳太子伝』巻七の太子二十三歳、山城国の宇治橋に赴いたおりの出来事を見てみよう。

「その日、山城国太秦楓野の大塚の里に、臨幸なされたまひて、楓の林を御覧あるに、御夢のごとく、楓林の中に、空虚なる枯木あり。変じて、微妙の浄土となる。五百の賢聖羅漢、並み居て、大衆の経典を誦し、常に天人充滿して、妙花を捧ぐ。凡夫は蜂虫と見たてまつれども、太子は淨利と見そなはし給



聖徳太子は四神に守護された山城の地が将来平安京となることを予言された

ふ。不思議なる靈地なり。此所に大伽藍を建立すべしとおほしめして、まつ飯の宮をいとなませたまふ。不日にして、造りをはんぬ。太子、飯の宮にましく、左右の侍従に語つてのたまはく、

「我、此地を相するに、國中の秀地なり。南は開きて朱雀の地、北は寒がつて玄武の峰あり。河、その前にわたり、東にながれて順をなす。高岳の上に、竜神、窟宅をなして、常にのぞみて、守護したまふ。東に厳神あり、西に猛靈の神をあ

ふく。四神相応の靈地にして、皇居ならびに伽藍守護の神明、諸方にさきだちましく、現じたまへり。二百年の後、一人の聖王あつて、ふた、び此所に都をうつし、王法相統して、旧軌をおとさず、仏法興隆して、伽藍安穩ならん」と(杉本校訂本三〇三頁)

現代語訳と解説を以下に示そう。

「太子が宇治橋に赴いた。その日、山城の国の太秦楓野の大塚の里において、浄土を御覧になると、(太子が見

た)夢と同様に、楓林の中に空洞になった枯れ木があった。(するとそれが)変化して有難き(仏の世界である)浄土となった。(そこには)五百の賢く聖なる羅漢が並び立っていて、(彼らが)大乘の経典を唱え(ると)、(仏を)供養する(人)が充滿して、(ほとけに)妙なる花を捧げた。凡夫が(天人)たちを見ると、ただの蜂が(飛んでいるだけ)と拝見するが、太子は(この土地が)浄らかな(仏)国土(になる)と御

覧になった。(この地は)人の思いの及ばぬ靈地である。

(太子は)ここに大伽藍を建立しようとお思いになつて、まず、飯の宮殿をお造らせになった。何日もしないうちに(飯の宮を)造りおわつた。太子は飯の宮において、左右の侍従に次のようにおっしゃつた。

『私がこの土地(を見て)吉凶を判断すると、日本の中で極めて優れた土地である(と)わかった。南は開けていて、朱雀の(神様がいらつしやる)地で、北は(山で)ふさがつていて、玄武の(神様の)峰がある。その前を河が通り東に流れて行く。高い山の上で竜神が洞窟のすみかにおいでになつて、常に(この地を)見て守護して下さる。東には(賀茂神社の)厳神がいらして、西では(松尾大社の)猛靈を尊崇する。(この地は、これらの)四神に相応しい靈地で、皇居や伽藍を守護する(神道

の)神々が四方の先頭に立つておいでになり、姿をお現しになる。(今から)二百年後に一人の聖なる天皇があつて、ふたたびここに都を遷し、天皇の定めた法が続いて行き、古い規則が無くなることもなく、仏法も盛んになつて伽藍も安穩である。』

浄土とは多くは極楽浄土をいうが、人の世が穢土であるのに対して広くほとけの世界をいう。浄土は仏国土といつてもよい。太子は山城(京都)のこの里を訪れ、そこが未来の浄土であり、靈地となることを予言した。そのことは太子だからこそ見えたことで、凡夫にはわからないことと『太子伝』は述べている。太子はここに飯の宮を建て、そこであらためて未来にこの地が平安京となることを侍従たちに予言して述べた。太子が語つた四神相応の地とは、まさに平安京のことを指

す。四神とは古代シナ神話にある四方を守る神で、日本にも古墳時代には伝わっていた。五行説などでは、天の東に青龍、南に朱雀、西に白虎、北に玄武の神獸がいて四方を司るとされ、その思想はそのまま日本でも受容された。藤原京や平城京、平安京の大内裏から南に延びる朱雀大路や朱雀門は、四神信仰に由来する。また、幕末会津藩の白虎隊も同様である。

このように外来の神獸を受容する一方、それらの神々は日本では古来の神々と習合、もしくは共存することになった。

上記『太子伝』に見る四神の地は、それぞれ日本の神社の所在と一致するとされる。ここで名前の挙がる東の厳神は賀茂神社を指し、西の猛靈は松尾大社のことである。『太子伝』の記述はこれに先立つ平安期の『聖徳太子伝』(東に厳神あり、西に猛靈を仰ぐ)に

基づくが、いずれも太子が仏菩薩を中心として日本の神々、五行の神々を尊崇していることを伝えている。太子の超人性ととも、信仰の寛容性、知識の国際性を示す記述である。

上記中の太子によれば、平安京の地相は四神に適した形であるから、都として仏を祀る伽藍や、天皇の宮殿に相応しいとされた。その上で、太子の存命する時代より二百年後に聖なる天皇が現れて遷都するだろうと予言している。聖なる天皇とは桓武天皇のことであり、遷都の年が延暦十三年、有名な「なくようぐいす平安京」の七九四年である。聖徳太子の生年を五七四年とすると、これを述べた数えの三十三歳は六〇六年。その二百年後は八〇六年であるから、十二年の誤差はあるものの、太子は未来の桓武天皇による平安遷都を予言的中させたことになる。もちろん、『太子伝』は

奈良時代や平安時代も経過した後に書かれたものであるから、その著者は太子以後の出来事を知っている。太子が本當に存命中にこのことを述べたことが実証できない限り、その予知能力を認めることは困難であるが、重要なのは、太子の超人性に対する信仰という思想的事実である。

『太子伝』は、聖徳太子の口を通じて、その前世の人物とともに、来世の転生者たる聖武天皇の事跡を挙げ、さらに先の世の出来事を予言せしめ、太子の異能を示している。

ここには引用しなかったが、太子は飯の宮を建てた後、臣下に命じて寺院を建立させた。『太子伝』はその寺院を広隆寺とする。広隆寺は一般に太秦の広隆寺といわれ、国宝の半跏思惟像の弥勒菩薩で有名であるが、本尊は聖徳太子を祀る。これらは太子の三世すなわち過去・現在・未来を結びつける記述である。

# 大本山高尾山薬王院中興第三十三世貫首 佐藤秀仁僧正 晋山式

来る四月六日、令和二年十二月に高尾山貫首に就任した佐藤僧正のお披露目、並びに晋山奉告法要を執り行います。つきましては左記の通り厳修いたします。

## 〔徒歩練行〕

時間 七時十分  
場所 高梁寺く御嶽神社く高尾駅南口商店街く熊野神社く氷川神社く高尾山商店会く高尾登山電鉄清滝駅前く高尾登山電鉄高尾山駅く薬王院

## 〔山麓式典〕

時間 九時四十分  
場所 高尾登山電鉄清滝駅前広場  
内容 稚児練行

## 〔晋山奉告法要〕

時間 十二時  
場所 本堂

## 前日及び当日の御護摩修行について

四月五日は場所を大師堂に変更いたします。  
四月六日は御護摩修行を行いませんが翌日七日に十一時護摩で御祈禱させていただきます郵送いたします。御信徒の皆様には大変ご迷惑をお掛け致しますが、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 晋山記念 特別開帳大護摩供奉修

佐藤秀仁御貫首の晋山を記念し、特別開帳大護摩供法要を左記の日程に於いて奉修致します。

開山以来、壹千弍百有余年という連綿たる歴史の中で、今日新たな御貫首が晋山されるといふ尊い御勝縁を祝し、仏法興隆・万国和平・国土安穩・講中繁栄・信徒安全をご祈願致しますので、十方有縁檀信徒各位の御来山を、心よりお待ち申し上げます。

尚、御檀家様、各御講中には予めご案内状をご送付させて頂きます。

## 〔日程〕

五月 七日  
十三日  
十四日  
二十日  
二十一日



# 高尾山物語 47

## 四天王門



絵・橋本豊治

御遠忌法要  
遠忌とは、仏教諸宗派の宗祖などに対して営まれる法要です。真言宗では、宗祖弘法大師が高野山にて入定された、承和二年(八三五)を基点とし、五十年毎に一度御遠忌法要を行っております。

大杉原を抜けると、大きな山門が見えてきます。この門は、真言宗の宗祖弘法大師(空海)の千五百十年御遠忌事業として、昭和五十九年(一九八四)に建立されました四天王門です。  
木造総檜造の門内には、東西南北をお護りしている、東方持国天王・西方広目天王・南方增長天王・北方多聞天王の御尊像が奉安されています。四天王は四方を護る仏教の守護神であり、日本では甲冑を着けて武器を持ち、邪鬼を踏みつける姿をとっております。  
四天王門は白川建築設計事務所が設計し、間組(現在の榎安藤・間が施工しました。  
また、四天王像は、東京藝術大学の西村公朝先生監修のもと、東京造形大学の彫刻家、大成浩先生により制作されました。  
高尾山の扁額(第三十一世山本秀順貫首の揮毫です。

いろは

天狗の落し文

14

過去を悔い、今現在の事に目を向け、好む事をする

## か

過去は過去です今現在の事に目を向け努力する

過去の栄光に慢心したり、挫折を悔やんだりして、新たな道へ進むことを恐れてしまった経験がある人もいることでしょう。  
しかし、過去に捕らわれたままでは、目の前の新たな問題に対応できないかもしれません。過ぎ去ったことを悔やんでも、また将来のことを思い悩んでも、未来は誰にもわかりません。  
より良い未来を目指すために忘れてはいけないことは、今やるべきことを明確にして実践を積み重ねていくことです。

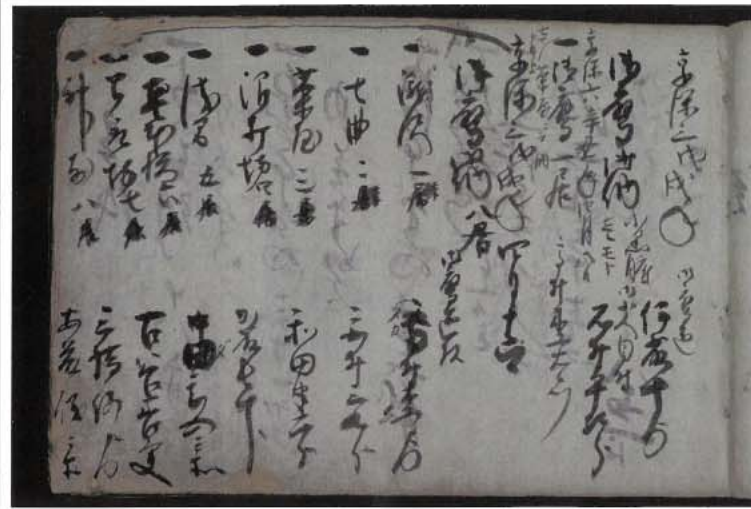
# 高尾山年代記

## 歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

27

### 十四世秀永4 享保三年の放生会



「年々諸用記」享保三年鷹納に関する記事

天保の由緒書には、享保三年（七一八）七月二日に八代將軍吉宗から寺領朱印状を拝受した記事に続き「同四月十六日放生会御奉納」と記されている。「御奉納」とあるからには、これは吉宗の意向によるものという意味に取れるが、この放生会奉納とは一体いかなる事なのだろうか？

#### 実在した記録

「御奉納」の後には「御鷹八居」とあり、八ヶ所の地名と八人の名が記されている。地名は「当山麓より神前までおよそ三十六丁の内、字にそうろう」と注記がある。それにしても、放生会があったとされる年と由緒書との間には一五年ものギャップがある。この將軍の意思によるものと取れる重大事は、何を根拠に記されたのか？ 人名のような細かな情報が口伝で伝わるとは思えないが、実はその根拠と思しき記事が明らかになっ

ている。  
享保元年からしばらくの間書き継がれた「年々諸用記」という帳面は、さまざまな記事を含み、その時期の高尾山内の様子が知れるリアルタイムの史料として大変貴重な存在である。その中に、  
享保三戊戌年  
四月十六日  
御鷹御納八居  
一、滝沢 一居  
御鷹匠頭  
高井全右衛門  
二、七曲 二居  
宮井三九郎  
三、茶屋 三居  
和田半六郎  
一、沼打場 四居  
加藤藤十郎  
一、浅間 五居  
中田甚五兵衛  
一、吉本杉 六居  
古谷善太夫  
一、土取場 七居  
三橋仙右衛門  
一、神前 八居  
安藤儀兵衛

でに寛永八年（二六三）の駒木野間所（裏高尾町）迂回を防ぐ高尾山内通行取締りの時点で一号路方面が主要な参道になっていたと考えられ、また、「年々諸用記」の享保四年の記載に見られる当時の「不動院」が現在地にあつたとすれば、さらに一号路が表参道であつた可能性が高まる。「茶屋」は享保六年の追記に「七マカリ上茶屋」とあり、江戸後期の紀行文が記す金毘羅台の茶屋に整合する。  
七曲の手前となる「滝沢」は、その名の通り滝のある沢と解釈すれば、布流滝（現在は枯れている）のある沢となる（清滝は宝暦五年・一七五五開削）。「浅間」は「神前」との順からして現在の奥之院裏手ではなく、江戸後期の地誌類にある一本杉よりは手前（現在地未確定）の浅間社のことだろう。後世のものではなく、リアルタイムの史料に現れる浅間社の記事

るものの、この記事を元に記されたことは間違いなからう。帳面の性格からして、まず架空の記事とは考えにくい。  
人名の内、宮井、加藤、中田、三橋、安藤の五名は幕府の鷹匠と判明する。鷹匠頭とある高井の高の字は修正の上「タカ」のルビが付されているが、「宮」の字が不鮮明なため後世書き足したものである。すなわち、「寛政重修諸家譜」にある宮井全太夫の誤記であり、三九郎はその息子。その時点で鷹匠見習いであつた。全太夫を鷹匠頭としたのは年長者でリーダー的な存在であつたということかもしれない。

時期は少し後になるが、地元旧家の日記に「この日高尾鷹雛、鷹匠衆來る」（享保六年四月一七日）、「この日高尾山鷹匠衆參られ御鷹放され」（同四年二月一〇日）という記述があり、その頃、時折鷹匠が高尾山を訪れていたことがわかる。

それにしても、放生会とは殺生禁断の思想に基づき鳥や魚を野山や湖沼に解き放つ儀式である。放生会の名目で鷹狩をおこなうことはあるまいが、この場合、獲物は狩らず、ただ鷹を放つのみということだつたのだろうか。

#### 「放生会」の実態

江戸初期から八王子には鷹を飼育する鷹部屋が設置されていた。鷹狩を止めた五代綱吉の時に廃止されるが、八代吉宗によつて復活され、鷹匠らは鷹の訓練に励んだであろうから、高尾山近辺にも訪れたということかもしれない。同時代の史料に「放生会」という言葉は見えないが、「年々諸用記」は「御鷹御納」と表現している。それに、八ヶ所の地点において一人ずつ鷹匠が配置されたという儀式ばつた形態からしても、単なる訓練とはみないがたい。

先の旧家の日記には「鷹雛」「鷹放され」とある。

あるので、享保三年の場合も八地点で鷹を空に放つたと思われるが、高尾山内での放鷹を飯縄大権現への奉納と解釈し、野山に鳥を放つことに相違ないのが、それが放生会という表現になつたのではないか。

この日記の主は八王子千人同心であり、幕府役人の動向を知る立場にあつたであろうし、放鷹にともない出役に応じたニユアンスの記事もある。この鷹の奉納が吉宗自身の意向によるものかどうかがは調べる術もないのであれば、公儀の意思として鷹を奉納したという解釈にはなる。

なお、この鷹の奉納は天保七年（二八三六）に作成された紀伊徳川家との関係を書いた由緒書では六代藩主宗直によるものとされている。何ゆえに宗直による奉納とされたのか？ 「年々諸用記」の記載だけではどの鷹匠だかはわからない。こ

の時期の鷹匠は和歌山藩士から転じた者が多く、宮井親子と、別に記される伊藤十右衛門（写真右端）はそれと判明している。想像上の話になつてしまふが、どこの人かと問われれば紀州の者と答えたであろう。紀州の鷹匠が来山したという伝承があつたのかもしれない。

#### 享保期の山内の様子

この鷹奉納の記事は、江戸中期の山内の様子が垣間見られるという意味でも、実に希少な記録と言える。

鷹匠が配置された地点の現在地について、「神前」「本杉」「七曲」「茶屋」はほぼ確実に比定できる。「神前」は飯縄宮の前というところでよいだろう。「本杉」は現在の蛸杉のことである。「七曲」の名は江戸後期の地誌に、金毘羅台直下の屈曲した登山道の辺りとして出て来る。裏高尾方面にも往古の参道と言われる羊腸屈曲した道があるが、す

てに寛永八年（二六三）の駒木野間所（裏高尾町）迂回を防ぐ高尾山内通行取締りの時点で一号路方面が主要な参道になっていたと考えられ、また、「年々諸用記」の享保四年の記載に見られる当時の「不動院」が現在地にあつたとすれば、さらに一号路が表参道であつた可能性が高まる。「茶屋」は享保六年の追記に「七マカリ上茶屋」とあり、江戸後期の紀行文が記す金毘羅台の茶屋に整合する。  
七曲の手前となる「滝沢」は、その名の通り滝のある沢と解釈すれば、布流滝（現在は枯れている）のある沢となる（清滝は宝暦五年・一七五五開削）。「浅間」は「神前」との順からして現在の奥之院裏手ではなく、江戸後期の地誌類にある一本杉よりは手前（現在地未確定）の浅間社のことだろう。後世のものではなく、リアルタイムの史料に現れる浅間社の記事

として初見である。  
残る二ヶ所については手がかりすらないが、記載順からすると「沼打場」は金毘羅台と蛸杉、「土取場」は蛸杉と飯縄宮との間という位置関係になる。この頃の山内の様子を明らかにする材料は非常に乏しいが、地誌・紀行文の残存する一九世紀前半から百年をさかのぼる表参道沿いの情景がおぼろげに浮かび上がる。  
※1 八王子の鷹部屋は享保七年段階には再興が確認できるが、放生会執行の享保三年段階では、鷹匠が八王子の鷹部屋から来たものかは確定できない。  
※2 現在の御本社は享保一四年の造立なので、その以前の社殿となる。  
《参考文獻》根崎光男『江戸幕府放鷹制度の研究』（古川弘文館二〇〇八）  
おことわり 本連載では史料の引用について、読みやすく原文に手を加えています。







# いけばなの心 25

華道教授 佐藤 宗明

三月に入ると二十四節気では「啓蟄」を迎えます。啓蟄とは土中で寒さをしのいできた虫たちが、春の気配で地上に出てくる時期の事です。この頃になると、植物たちも多くの花を咲かせ、硬い風情の枝物も春の装いになってまいります。

今回生けた花材は「山菜莢」という枝物です。この名前は中国での名称を、音読みにしたところから来ております。日本では春先に黄色い花を一面に咲かせる事から別名「春黄金花」とも言われます。その姿が想像できる素敵な名前です。今回は釣って飾る「月」の花器を使い生けてみました。月という秋を思い出しますが、それぞれ

四季を通して違った雰囲気月の月が感じられて楽しいものです。今までに一度、月の花器を使った作品をご覧頂きましたが、今回の作品は右側に伸びる体、という役枝を特に花器の曲線に合わせるように生けてみ



花材：山菜莢

ました。左側に伸びる真からゆるい曲線を描き、おぼろ月のような、ゆったりとした春の風情をイメージしています。また、この山菜莢は秋になると、真っ赤な実をつけることから「秋珊瑚」という別名もあります。季節によって植物の呼び名が変化するというのも草木の姿をしつかり見つけて、一緒に暮らす日本人の感性がよく現れていると思います。

## 新型コロナウイルスに対する安全対策

高尾山薬王院では、新型コロナウイルスの感染予防を図る為、受付や御札授与所における飛沫感染防止ビニールガードの設置、境内各所への消毒液設置、また職員のマスク着用などの対策を実施しております。

御来山の皆様方にはお手数をお掛けしますが、当日ご自宅を出る前に検温して頂き、体調が優れない時や、不安な時は御来山をお控え下さいますようお願い申し上げます。

尚、最新の情報や行事の実施等につきましては、薬王院のホームページをご覧ください。お問い合わせください。

下記のQRコードがURLから検索ができます。



TAKAOSAN.YAKUOIN

instagram.com/takaosan\_yakuoin/

**薬王院インスタグラム紹介**  
高尾山では、インスタグラムを用いて各種行事や四季が移ろいゆく風景を、写真や動画で御信徒様にお届けしております。これからも様々な写真や動画を沢山アップしていくので是非ともフォローをお願い致します。

## 高尾山報助成金志納者 御芳名順不同 敬称略

北 区 大 満 寺	前 橋 市 青 木	幸 手 市 小 野 寺	良 貴
狛 江 市 熊 澤	深 谷 市 小 内	足 立 区 中 山	恵 司
八 王 子 市 天 野	宇 都 宮 市 大 庭	八 王 子 市 松 村	延 子
熊 谷 市 藤 田	宇 都 宮 市 見 城	富 里 市 金 林	鐘 一
八 王 子 市 高 澤	上 尾 市 友 光	新 座 市 彰 山	照 森
熊 谷 市 杉 本	赤 羽 市 赤 羽	八 王 子 市 水 越	粧 麗
八 王 子 市 橋 本	高 野 市 清 水	大 手 市 初 夫	邦 裕
八 王 子 市 高 橋	川 村 市 川 村	濱 中 市 濱 中	涉
比 企 郡 高 橋	市 原 市 本 吉	熊 谷 市 妻 沼	飯 縄 講
熊 谷 市 丸 山	大 和 市 神 崎	八 王 子 市 小 松	泰 子
太 田 市 一 ノ 瀬	八 王 子 市 栗 原	八 代 市 庄 司	政 美
相 模 原 市 高 橋	相 模 原 市 南 波	八 王 子 市 石 原	達 弘
国 分 寺 市 田 中	相 模 原 市 遠 藤	川 越 市 倉 橋	攝 子
八 王 子 市 秋 山	足 立 区 小 川	佐 野 市 小 宮	ヨ シ 子
八 王 子 市 桑 澤	東 松 山 市 石 井	船 橋 市 佐 保	道 夫
八 王 子 市 笠 原	八 王 子 市 清 子	八 王 子 市 吉 田	純 義
入 間 郡 清 水	相 模 原 市 黒 木	品 川 区 伊 藤	利 江
大 田 区 荻 澤	相 模 原 市 黒 木	草 加 市 峯 尾	誠 規
八 王 子 市 佐 戸	八 王 子 市 伊 通	小 平 市 関	好 生
秩 父 郡 今 井	八 王 子 市 喜 和	千 葉 市 鈴 木	道 雄
八 王 子 市 落 合	八 王 子 市 義 晴	所 沢 市 北 田	富 江
八 王 子 市 佐 藤	八 王 子 市 義 晴	立 川 市 堀 江	光 一
千 代 田 区 小 嶋	八 王 子 市 美 佐 子	邑 楽 郡 坂 本	秀 夫
八 王 子 市 倉 石	八 王 子 市 美 佐 子	相 模 原 市 五 味	俊 明
中 央 区 富 澤	八 王 子 市 美 佐 子	高 尾 山 健 康 登 山 者 一 同	美 恵 子
さい たま 市 鬼 頭	八 王 子 市 美 佐 子		

## 高尾山内八十八大師巡拝のご案内

二つのグループに分け、途中(山上十一丁目茶屋前第十七番札所)で合流し、一緒に巡拝致します。

A、不動院から琵琶滝を経由して薬王院まで歩く  
B、ケーブルを利用する。

(琵琶滝周辺のお大師様は巡拝できません。また、ケーブル代金は自己負担になります。)

行 程 山麓不動院↓琵琶滝↓仏舍利塔  
↓本堂(護摩修行)↓坊入(昼食)  
↓下山(一号路)↓不動院着(法楽)

参加費 五千円(昼食代、保険料含む)  
集合場所 山麓不動院(八時半集合)  
申込方法 ハガキに郵便番号、住所、氏名、生年月日、性別、電話番号を明記の上、左記までお申込み下さい。

締め切り 四月三十日(土)  
千九三二八六八六  
八王子女子高尾町二七七

また、ホームページからお申込みすることもできます。下記のQRコードよりアクセスして頂き、必要事項をフォームに入力して下さい。

申し込み後、請書(行程表・持ち物等)をお送り致します。  
\*尚、新型コロナウイルス感染症の状況により行程等に変更がある場合があります。





# 登山だより

## 四月行事日程

一日～七日

聖天秘供(聖天堂)

十日、二十二日

弁天様御縁日

一日

滝びらき

六日

大本山高尾山薬王院

中興第三十三世貫首

佐藤秀仁僧正晋山式

八日

花まつり(仏舍利塔)

二十三日

月例写経会

(十三時半山麓不動院)

二十四日

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

二十六日

御詠歌勉強会

(十時山麓不動院)

二十八日

奥之院開扉供養(十時奥之院)

二十一日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

○御本尊様の日々の御

加護に感謝し、百味のご

供物を捧げて供養する

法要です。

皆様の御志納を受け付

けておりますので、ご希望

の方は大本堂までお申し

出下さい。

尚、法要終了後に百味の

お札を授与致します。

御志納金 一口三千元以上

## 毎日の お護摩奉修時間

(11月1日～4月14日まで)

午前6時00分

〃 9時30分

〃 11時00分

午後0時30分

〃 2時00分

〃 3時30分

ご講中・団体等御相談  
下さい。

# 高尾山春季大祭

大護摩供法要(大本堂)  
柴燈大護摩供(有喜苑)

四月十七日(日)



本年の春季大祭につき

ましては、新型コロナウイルス

イルス感染症拡散防止

対策を徹底した上で開

催致します。

ご参加される方は、当

日朝に検温して頂き、も

し体調が優れない時やご

不安な際には御来山を

お控え下さい。

尚、今後の感染症流行

状況次第では、実施方法

などが変更となりますこ

とをご承知下さい。

## 高尾山春季大祭お稚児募集

昔から「子宝」という言葉がありますように、ご家

庭は子孫の成長によつて、子々孫々に受け継がれ発展

していくものです。私達が次代を託するという意味で

は、子供は文字通り宝であります。

皆様方のお子様が高尾山御本尊飯縄大権現様の御

加護の下、健康に、逞しく成長されますよう、お稚児

練り供養にご参加をお勧め申し上げます。

定員 五十名(定員になり次第締め切らせて頂き

ます。)

参加料 お稚児 七千円 付添人 千五百円

お申込・お問い合わせは高尾山お稚児係まで

☎〇四二一六六一一二五

## 訂正とお詫び

一月号十九ページ上に

掲載いたしました「高尾

山報助成金志納者御芳

名」にて、御名前に間違

いがございました。

(正)

八王子市 小坂 幸夫

(誤)

八王子市 小坂 幸夫

茲に謹んでお詫び申

し上げ、訂正致します。



高尾山薬王院ホームページ

<https://www.takasasan.or.jp>

下記のQRコード  
から高尾山薬王院  
のホームページに  
アクセスできます



発行所  
東京都八王子市高尾町2177  
大本山  
高尾山薬王院  
郵便番号 193-8686  
電話(042)-661-1115(代)  
FAX(042)-664-1199  
発行人 菅谷 秀浩  
編集人 菅井 倫浩  
印刷 ヒラツカ印刷社  
毎月1回1日発行  
1部50円